

【風しん】

(2006年 横浜市感染症発生動向調査より)

1994年以降、全国的な流行は見られなくなりました。

横浜市でも、ここ10年は、流行らしきものは見られていません。

年間患者報告数は、1999年以降大きく減少していましたが、2004年に122人と多く報告されました。翌2005年は46人に減少し、2006年はさらに減少し、19人でした。

2006年の年間を通しての患者報告を見ると、総数が少ないため一概に言えませんが、春に多く報告されていました。

年齢層別に患者を見ると、12か月未満が2人、1歳が3人、2歳が3人、3歳が3人と、3歳以下で約58%を占め、20歳以上も4人と、全体の21%になっていました。

2006年4月より、麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の2回接種が導入され、今後さらに減少していくと思われます。

